

## 士別軌道 9 号車モノコックバス復活の第一歩 (R8.4.18)

4月18日(土)日野自動車株式会社、本社の有志4名の方々に、弊社までお越しいただきました。エンジンに関するその道のプロの方々に、バリバリの上級職の皆さんです。

目的は、エンジン回りの故障箇所を特定するため、旭川空港から弊社に11時前に到着



し、4時間半ほど掛けて、分解、確認作業をしていただきました。自分は、バスの構造にまったく疎いのですが、その間、ずっと見ておりました。エンジン付近のバスの下にもぐって、色々な所を確認いただきました。素人ながら大変な仕事だなと感じております。

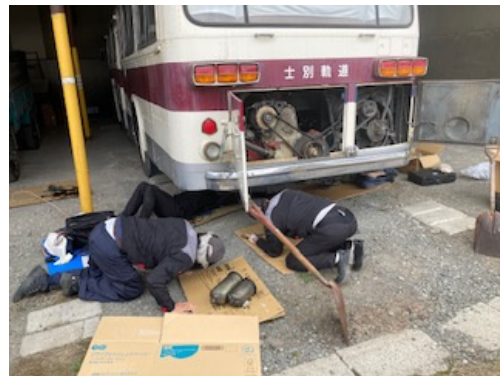
限られた時間の中で、真剣にみていただき、その日の夜の便で、東京へ戻られました。

今回、故障箇所は特定できませんでしたが、ある程度、絞れたということです。

士別市内の自動車整備工場の工場長にも、故障までの流れや可能性のある箇所などアドバイスをいただきました。

皆さん、休日にもかかわらずモノコックバス復活のために、時間を割いていただき感謝しかありません。

今後、北海道日野自動車、地元整備工場と連携を取りながら、進めていきたいとのことであります。復活の第一歩として、希望がみえてきました。



日野自動車の本社からいらした、一番上の役職の方にモノコックバスのシートに座りながらお話をした時、「なんとか動かしたいですね」との言葉をいただきました。自分も、本当にそう思いました。

資料室から探してきた昭和53年に作られたRC型バスの構造に関する冊子をみせていただきました。真剣に動いていただいているのがわかりました。

以上、バスファンの皆さまに報告申し上げます。

2026年4月20日 士別軌道の社長 井口 裕史